



竹の器を作ろう（ろくじ館）

うたごよみ 一 弥生 一

「短歌」

渡辺幸士選

両脇をしつかと娘等に支えられ石段登る足踏
みしめて 森田 房恵
「暖かね」と顔を出したる露の蓋二月始めの
晴れたる野辺に 吉永由紀子
寒き夜も蠟燭の灯は真つ直ぐに穏やかなれば
焰揺がず 塚原 暁益
健気にも寒さに耐えて沈丁花彩り紅く染め
て咲きおり 赤星 延子
振り袖に着飾る孫の顔を見て「草臥たる」と
つい声かける 赤星 文子
足元に顔を出したる露のとう春一番の吹く頃
となり 緒方 明美
朝食のパン切れ残しちぎりつつテラスに撒き
て雀遊ばす 上村 かず
山茶花の朱の花濡らす氷雨振り真珠のしず
く花より零る 松本ぬい子
大空に届とばかり伸びて咲く薄紫の皇帝ダリ
ア 内田乃武子
寒風に曝されながら蠟梅は甘い香りで周りと
ます 上村やす美
構われず育ち熟れたる晩柏柚煤を頭に拗ね
し顔して 内山タミエ
箱根路をたすき受け継ぎひたすらに走る若者
テレビに映る 塚原 俊子
最終のバスの乗客ほろ酔いのわれ独りなり貸
切りのごと 渡辺 幸士

「川柳」

渡辺幸士選

「生きる」

振り返りよくぞここまで生きて来た 林 雅之
生きてこそ暮らしの道にのこる夢 緒方 瑞枝
九十五歳 土と生かされ足とめず 伊豆野ヤエ
遙々と生きたドラマのいとおしき 北 仁子
ほろほろと島倉ちよ子の唄に泣く 布田 愛子

「祈る」

病む母の回復祈る百度石 清川みどり
祈ること数多あり過ぎ迷いおり 松本ぬい子
亡き夫に感謝の祈り朝夕に 古閑チヨミ
初詣で無神論者も神頼み 早 彦喜
戦勝も平和も神に祈願する 渡辺 幸士

「肥後狂句」

北川直美選

田舎道 似合いの相手世話やかす みどり
田舎道 アラまた増えた信号機 千恵
田舎道 会う人ごとにお辞儀さす ぬい
田舎道 友等と熟柿挽いだっけ 筍園
田舎道 夕餉にのびる出そうばい 直美

■お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
096・234・2447（内線321）